

阪神

■阪神総局
〒662-0971
西宮市和上町6-25
TEL...0798-33-5541
FAX...0798-23-0302
e-mail
hanshin@kobe-np.co.jp

■尼崎支局
〒661-0953
尼崎市東園田町
9-4-5
TEL...06-6491-5525

■宝塚支局
〒665-0022
宝塚市野上2-5-22
TEL...0797-71-9145

■伊丹支局
〒664-0846
伊丹市伊丹2-1-19
TEL...072-772-3212

阪神・淡路大震災から21年を迎えるのに合わせて、西宮市甲子園口1のギャラリーわびすで「1・17 紙芝居と絵本の震災記憶展」が開かれている。

震災の記憶を伝えたという、2003年から毎年この時期に震災をテーマにした展示を続けており、オーナーの船橋正樹さんが直接声を掛け、展示品を募っている。これまでに阪

伝える 震災21年

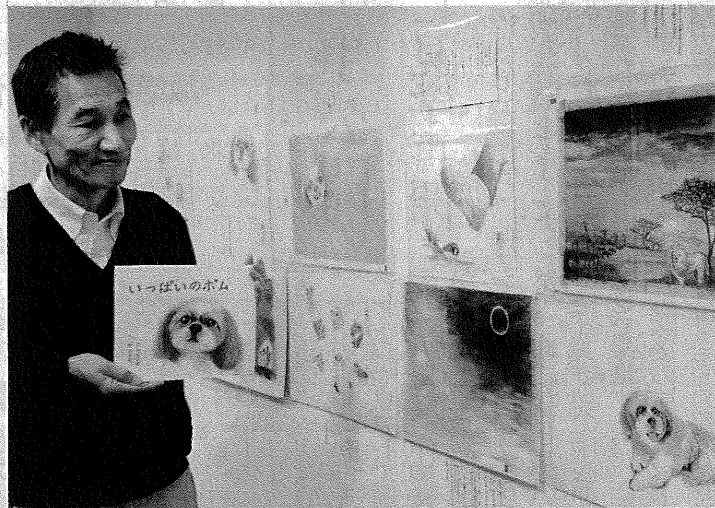
体験を紙芝居や絵本に

西宮新聞含め50点展示

神・淡路以外にも、東う。そこで命の大切さ日本大震災や海外の災害などの写真展も開催してきた。

今年、西宮市居住の元教員らが21年前の震災経験を紙芝居や絵本の原画にした3作品や当時の様子を伝える新聞など50点余りが並んでいる。

元西宮市立小学校長の岡本宏美さんは、震災当時実家に預けた飼犬と、さまざまな災害で置き去りにされた動物などが重なるという展示品を見つめるオーナーの船橋正樹さん(西宮市甲子園口1)



西宮市内で10日、高齢者介護の実態を語り合う「まじくる かいご楽快」が開かれた。パネル討議では、親や夫の介護を続ける家族のほか、施設関係者や医師らが登壇。介護保険制度が始まり15年が経過する中、サービス契約がもたらした家族の孤立や施



設側との葛藤、介護職員の疲弊など赤裸々な意見を出し合った。「よりよい介護とは」。お年寄りの立場で考え、家族と介護・医療の現場が歩み寄り、コミュニケーションが大事という。

(井関 徹)

西宮で介護の実態語り合う集い

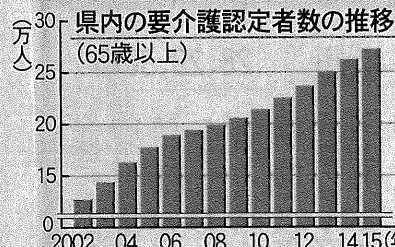


介護家族や福祉・医療関係者が実態を赤裸々に語ったパネル討議(西宮市八湛寺町)

高齢者の立場で改善を

「自分の体が持つ間は思いを語った。は夫の意思を尊重し、自身の体力も衰え、在宅介護を続けたい。負担は年々大きくな状況に応じて助けを借りてやっていたけれど、24年間、脳内出血で半身まひになった夫を介護する。介護施設と利用方法を巡り、ぶつかったこ

とも。そんなとき助言を受けた。「あなたができないことを施設に手伝ってもらっているのよ」。家族側の思いがかりに気付かされた。現在、デイサービスを利用して「お互いが譲り合い、よりよい介護をしていくべきでは。施設への感謝の気持ちをもちたい」



介護をする施設側も悩みを抱える。「サービスと言った途端、やってもう側とやる側になる。お年寄りにとってよりよい方向を共に考える関係が必要ではないか」

家族と福祉・医療関係者登壇「互いの歩み寄り必要」

東京で介護施設の総合ケアアドバイザーを務める鳥海房枝さんは、施設の内実を見つけた。入所高齢者は世話をされることに負い目を感じ、自分でやろうとする。施設側は逆に、親切心から管理を強めてしまうという。

「介護職は家族にお願いしている」。入所者にとって何がいいのか。「家族を考えると側に引きずり込むことも大事」と指摘した。

施設の在り方に疑問を持ち、松山市で託老所を開設した中矢暁美さんは、お年寄りの立場を重視する。「自分の親だったらどう介護するか、が原点だった」

「家族には高齢者と一緒に過ごす時間を大切にしよう伝え、施設外へ連れ出すことを勧めた」

「年寄りに罪はない。家族でしか出せない愛情があるのに、介護保険に頼りすぎている」



「楽しい」を主催した西宮市のNPO法人「ついで場さくら」は、介護者らが悩みを打ち合う交流の場を提供している。代表の丸尾多重子さんは「しゃべったり、泣いたり、感情を吐露することが一番の介護予防。介護保険の導入で、高齢者も介護職も話を聞いてくれる人がいなくなった」と話す。

今、全国各地で同じような「ついで場」が誕生している。「介護職も含めて、する側のサポートがない。これからさらに、ついで場が大事になる」と言い切る。

県によると、県内の65歳以上の要介護認定者数(要支援・要介護)は年々増えており、昨年1月末現在で約21万人となっている。

「安全安心伊丹」

2015年表すことば

伊丹市立図書館「こらおうと、2013年から毎年行っていることば」(宮ノ前3)は、2015年の伊丹を表す6文字以内の言葉今年の伊丹(ことば)を、「安全安心伊丹」に決めた。このほど同館で書き初め教室があり、市立伊丹高校の書道部員が筆書きしてお披露目した。

市はことば文化都市を掲げ、この1年を振り返りつつ、楽しみながら伊丹を象徴する言葉を考えても

「今年の伊丹(ことば)を筆書きした市立伊丹高校書道部員ら(伊丹市宮ノ前3)ことば蔵提供」



5時。無料。問い合わせ0798・633・646 (吹田 伸)

今回は21人の応募があり、公開選考会を実施。「空港統合」「ピタミン」などの中から、「安全安心伊丹」が選ばれた。(土井秀人)

若手作家らの絵画や写真

西宮「新春小品展」に29点

西宮市美術協会と若手作家の絵画や写真作品が並ぶ「新春小品展」が西宮市のアトリエ西宮(馬場町)で開かれている。

回アトリエでは、1982年から毎年、西宮神社(社家町)で行われる十日えびすに合わせて、個展や交流展を開いている。

今年は、花瓶にアサガオの花を生けた様子を描いた「花」や舟に乗ったえびす様がタイを釣っている「恵比